

編集後記

紀要編集委員長 中鉢欣秀

この度、産業技術大学大学紀要第6号を発刊する運びとなった。本学の教員を中心とする著者による28件の論文を収録し、多様な研究成果がこの中には含まれている。情報科学や機械工学の基礎的研究もあれば情報システムの応用、ないしは、デザイン・感性領域に関するものもある。分野融合型の新しい研究を試みる本学の特性が、この紀要という形で改めて顕示されたと言えよう。

著者から投稿された論文は編集委員による査読を経て掲載しており、各論文の種別は、著者から送付された投稿票に記載されたものをそのまま掲載している。ただし、本学における研究の多様性から、査読にあたっては一般的な学術論文誌のような内容面の評価は困難であり、編集委員会では明らかな記述の誤り・誤字脱字などの有無を確認することに留めることにした。これは、これらの多様な研究成果を一律な評価軸で判断するのではなく、むしろその多様性を保ったまま一つの論文誌という形に纏めるということこそ本学紀要の意義なのではないかとの考えに基づく。

紀要の編集方針は、歴代の編集担当者が見解を踏まえ様々な変遷をたどってきたと聞く。紀要の編集のあり方については今後も継続的に議論をする必要があろう。例えば、他分野の読者が研究の内容を評価できるような評価軸を提示することを予め著者に依頼したり、投稿された論文の位置付けについてより明確に記載してもらったり、といった工夫も必要なのかもしれない。

今回、編集委員長としてすべての論文に目を通す機会が与えられた。私自身は情報システムが専門であるが、創造系の教員の論文も大変興味深く拝読させていただいた。逆に、情報系であっても相当に高度な研究もあって、なかなか読み応えがあった。

本誌を手にとられた方には、他の分野の研究者の手による論文もぜひご一読していただきたいと切に願う。他分野との融合から新しい果実を得るためには、自分と異なる立場に対する理解が不可欠であり、そのために必要となる努力をし続けることこそが、次世代への飛躍につながるのだと思う。

末筆ながら、論文を執筆された著者の皆様、編集委員各位、及び、産業技術大学院大学事務局に感謝を申し上げ、本稿の締めとしたい。